

資料・統計

2004年病理部業務統計

Annual Report of Pathology in 2004

阿部 康彦 木下 律子 泉田 佳緒里 佐藤 由美
 栗原 アツ子 北澤 綾 川崎 幸子 弦巻 順子
 西村 広栄 丹後 絹代 中島 亜希子 斉藤 芳弘
 太田 玉紀 本間 慶一 根本 啓一

Yasuhiko ABE, Noriko KINOSHITA, Kaori IZUMIDA, Yumi SATOU,
 Atsuko KURIHARA, Aya KITAZAWA, Sachiko KAWASAKI, Junko TSURUMAKI,
 Kouei NISHIMURA, Kinuyo TANGO, Akiko NAKAJIMA, Yoshihiro SAITOU,
 Tamaki OHTA, Keiichi HOMMA and Keiichi NEMOTO

要 旨

2004年(1月~12月)病理部業務統計をまとめた。総依頼件数は24,074件で、内訳は病理組織診断12,484件、細胞診断11,590件、電子顕微鏡検索16件、病理解剖22件、細胞診、組織診を合わせた術中迅速診断1,393件、院外受託1,734件、肺癌検診喀痰細胞診450件であった。業務件数は作製ブロック数52,086個、各種染色標本103,297枚であった。受け入れた研修生、実習生は総数21名であった。

2004年は総件数では前年比2%増でほぼ横ばいであったが、組織診断ではじめて12,000件を越えた。また迅速診断は前年比25%増加し、特に細胞診では約40%増の829件であった。乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学的検索Hercep Testは前年と比較し20%の増加で530件となった。

はじめに

2004年病理部業務統計を報告する。医療の高度化、癌治療の進歩に伴い病理部に対する要望も多岐にわたり、より高度で詳細な病理学的検索あるいは情報の提供が求められるなかで、できるかぎりの努力をしてきた。

また当がんセンターの理念でもある地域協力、人材の育成という立場から研修医、医学部学生、検査関連教育施設の実習生の受け入れ、さらには中国からの研修医の受け入れ等最大限の対応をしてきた。

2004年病理部業務件数(表1)

受付依頼件数はほぼ横ばいで総依頼件数は24,074件であった。組織診は12,484件ではじめて12,000件

を越えた。細胞診は11,590件であり、肺癌検診の件数の減少で総件数も減少したが、肺癌検診以外の細胞診は年々確実に増加しており、2004年には肺癌検診を除いた件数は11,000件を突破した。院外受託は1,734件で、やはり増加の傾向がみられる。14施設から依頼があり、依頼施設は県立病院5施設(加茂病院、津川病院、坂町病院、新発田病院、吉田病院)、その他9施設であった。術中迅速診断は1,393件で、組織診、細胞診共に大幅な増加で組織診25%増の564件、細胞診は38%の増加で829件に達した。術中迅速の増加は日常業務での大きな負担となっている。業務件数は作製標本数でついに100,000枚を超えた。免疫染色も年々増加し11,000枚を越えた。さらにHercep Testは前年比で20%増加し530件に達した。

依頼件数が横ばいであるなかで、これら遺伝子、

表1 2004年病理部業務件数

		総件数	組織診	細胞診	電子顕微鏡	病理解剖	遠隔診断
依頼件数	がんセンター	16,054	6,336	9,718	15	22	3
	がん予防センター	5,836	4,785	1,051			
	院外受託 ¹⁾	1,734	1,363	371	1		
	術中迅速(再掲)	1,393	564	829			
	肺癌喀痰集検 ²⁾	450		450			
	(依頼合計)	24,074	12,484	11,590	16	22	3
業務件数	ブロック数	52,086	51,266		239	820	
	切り出し数	73,043	72,223			820	
	普通染色	86,056	66,530	18,699		827	
	特殊染色	5,016	3,490	1,457		69	
	免疫染色 ³⁾	11,634	10,906	506		222	
	ISH染色 ⁴⁾	56	56				
	Hercep Test ⁵⁾	530	530				
	FISH ⁶⁾	5	5				
	(染色合計)	103,297	81,517	20,662		1,118	
実習生	研修医	7					
	医学部学生	3	新潟大学医学部				
	臨床検査学生	9	新潟医療技術専門学校 4, 北里保健衛生専門学校 5				
	中国研修生	2	中国黒龍江省臨床検査技師				
職員	病理医	3.1	常勤 3.0, 非常勤 0.1 (隔週 1日)				
	細胞検査士	7					
	臨床検査技師	3					

1) 院外 14 施設 (県立病院 5 施設, その他病院, 医院 9 施設)

2) 2 市町を担当した

3) 免疫染色では 130 種類以上の抗体を使用

4) In Situ Hybridization (ISH) による EB ウイルスの検索を行った

5) 乳癌の HER 2 タンパクの免疫組織化学法での半定量的検索を行なった

6) FISH 法による乳癌の HER 2 遺伝子の検索

表2 2004年病理検査科別依頼件数

	総依頼件数	組織診件数 (%)	細胞診件数 (%)	電顕件数	病理解剖
内科	1,446	478(3.8)	950(8.5)	2	18
内科 (がん予防) ¹⁾	3		3(0.0)		
神経内科					
精神科					
小児科	771	374(3.0)	394(3.5)	6	3
外科	2,096	1,483(11.9)	613(5.5)	2	
外科 (がん予防)	1,355	307(2.4)	1,048(9.4)		
整形外科	333	311(2.5)	22(0.2)		
脳神経外科	38	29(0.2)	9(0.1)		
呼吸器外科	819	360(2.9)	459(4.1)	1	
心臓血管外科	1	1(0.0)			
内視鏡	652	142(1.1)	510(4.6)		
内視鏡 (がん予防)	4,478	4,478(35.9)			
産婦人科	6,237	1,166(9.3)	5,071(45.5)	3	
耳鼻咽喉科	486	286(2.3)	200(1.8)	1	
口腔外科	1	1(0.0)			
眼科	12	12(0.1)			
皮膚科	813	807(6.5)	6(0.1)		
泌尿器科	2,314	879(7.0)	1,434(12.9)		1
放射線科	54	5(0.0)	49(0.4)		
麻酔科					
院外受託 ²⁾	1,734	1,363(10.9)	371(3.3)	1	
総計	23,646	12,484(100%)	11,140(100%)	16	22

1) (がん予防): がん予防総合センター

2) 組織診断は主に消化管生検材料, 骨髄, 乳腺の受託
細胞診は加茂病院が主で尿, 喀痰をはじめ材料は多彩

表 3 2004 年病理組織部位別件数

	生検材料	手術材料	迅速材料	総件数	2003 年総件数
頭～頸部	102	123	14	239	262
甲状腺	1	89	3	93	63
気管支・肺	155	292	36	483	437
乳腺	361	501	14	876	754
肝臓	20	71	14	105	89
心・縦隔	7	18	2	27	50
膵・胆道系	0	203	46	249	236
食道	396	61	16	473	336
胃	2,762	423	22	3,207	3,320
十二指腸	163	26	4	193	153
小腸	13	30	0	43	35
大腸	2,542	249	2	2,793	2,637
腹膜・腸間膜	6	71	12	89	72
腎・副腎	0	103	0	103	78
膀胱・尿管	176	97	17	290	232
陰茎	2	5	0	7	10
前立腺	458	34	13	505	532
精巣	0	48	0	48	58
卵巣	0	247	52	299	236
子宮	636	372	20	1,028	857
骨・軟部組織	15	249	38	302	286
骨髄	915	0	2	917	840
皮膚	154	672	4	830	719
脾臓	0	32	0	32	33
リンパ節	32	1,532	264	1,828	1,502
(合計)	8,916	5,548	595	15,059	13,827

※ 総件数, 生検材料, 手術材料は延べ総数を計上

表 4 2004 年細胞診成績

	件数 ¹⁾	迅速 ²⁾	Class I	Class II	Class III	Class III a	Class III b	Class IV	Class V	検体不良	所見のみ
頭～頸部	48		2	37	2			1	5	1	
甲状腺	419		15	311	25			5	31	30	2
気管支・肺	757	91	5	351	19			27	350		5
喀痰 ³⁾	795		13	682	21			14	53	10	2
肝・胆・膵	42		1	12	6			8	9		6
子宮頸体部	5,132		821	3,857	59	246	21	30	76	17	5
子宮断端部	499		216	242	5	13		5	16	2	
外陰部	9		2	5					2		
骨髄	25		9	15				1			
腫瘍	77	2	5	31	7			3	19	5	7
リンパ節	76	3	4	15	2			3	45	5	2
心嚢液	10								10		
脊髄液	438	1	7	398	8			4	18	2	1
胸水(洗浄液含)	325	193	8	236	7			5	69		
腹水(洗浄液含)	861	666	8	677	23			19	134		
尿	1,624	1	63	1,171	134			69	177	3	7
その他	32	6	2	20					6	1	3
(合計)	11,169	963	1,181	8,060	318	259	21	194	1,020	76	40

	件数	迅速	検体適正 (良性)	鑑別困難	悪性疑い	悪性	検体不適正	所見のみ
乳腺	1,123		416	36	55	283	330	3

- 1) 細胞診検査材料は延べ件数を計上
- 2) 術中迅速細胞診材料は延べ件数を計上
- 3) 肺癌検診の件数は含まず
- 4) 乳腺は判定基準の変更あり別計上

免疫染色等の件数の増加は病理からのより詳細な情報の提供が求められている一つの現れであると思われる。

2004年病理検査科別依頼件数 (表2)

総依頼件数は23,646件で、組織診では12,484件中予防センターが4,785件で約4割を占め、消化器内視鏡が大半であったが、乳腺外来の生検数も年々増加している。本院では外科の件数が一番多く、続いて婦人科、泌尿器科、皮膚科の順で、婦人科や外科(乳腺外科)が増加の傾向がみられる。院外受託は1,363件で約1割を占め、県立加茂病院、県立津川病院、佐渡総合病院の3病院が大半を占めている。

細胞診では産婦人科が11,140件中5,071件で半数近くを占め、続いて泌尿器科、予防センター外科、内科、内視鏡(呼吸器)の順で依頼が多く、とくに乳腺外科、院外受託に増加の傾向がみられる。

電頭依頼は血液疾患主体で16件で、小児科が多かった。また剖検は22件で年々減少し、依頼科は内科が主体であった。

2004年病理組織部位別件数 (表3)

部位別件数では延べ件数15,059件中消化器系が半数以上を占め、生検材料でも消化器系が圧倒的に多く、続いて骨髓生検、婦人科系、泌尿器科系、乳腺、呼吸器系の順であり、とくに婦人科、乳腺が前年と比較し増加している。手術材料ではリンパ節、消化器系、皮膚科系、婦人科、乳腺、呼吸器系、骨・軟部等の順で乳腺の増加傾向がみられた。迅速材料は前年比約3割近く増加し595件あった。センチネルリンパ節生検との関係でリンパ節の増加が大きく、269件に達した。続いて卵巣、膵胆道系、骨軟部、呼吸器系(肺等)の順に多かった。

2004年細胞診成績 (表4)

件数は延べ件数であり、12,292件であった。子宮頸体部が5,132件で半数近くを占め、続いて尿、乳腺、喀痰、気管支・肺、胸腹水が多かった。とくに乳腺の増加が目立ち1,100件に達した。なお乳腺については判定基準の変更のため別計上した。術中迅速細胞診は963件で前年より約30%増加し、うち胸・腹水が859件で圧倒的に多く、ついで肺・気管支が目立った。なお迅速細胞診は通常の保険点数しか認められず、負担の大きい割に評価が低く、今後の点数増を期待する。細胞診陽性(ClassIV, V)は1,552件で12.6%でほぼ前年なみであった。また目的とする細胞がほとんど見られないような標本で検体不良としたものが406件で3.3%近くあり、前年より150件多く割合も1.3%増加した。前年同様乳腺、甲状腺穿刺吸引細胞診に多く、とくに乳腺では30%近くに達した。乳腺の判定基準では10%以下が望ましいとされており、また検体不良は再検査など患者への負担増につながるため、臨床側とも協力の上で採取法等総合的に原因を検討し、早急に改善に努めていきたいと考えている。

おわりに

2004年病理部業務統計を報告した。依頼件数は横ばいではあったが、組織診件数がはじめて12,000件を越え、迅速も大幅に増加し全体の業務量は増加した。内容の濃い業務で大変な状況ではあるが、今後も臨床側の要望にできる限り応えられるよう努めていきたい。

最後に皆様のご協力に感謝するとともに、今後もよりいっそうのご協力をお願いします。